

■議会による行政評価 基本目標評価取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標		3 地育力が支える学び合いで、生きる力を持ち、心豊かな人材を育む	
		【評価できる点】	【改善・修正が必要な点】
<b>①「計画（戦略）は適正か」「取組は的を射ているか」</b>			
清水	・	・	
古川	・	・	
山崎	・概ね妥当と思われる。	・この戦略において「コミュニティスクールをどう位置づけるか」を明確にすべき。	
永井	・年度戦略の5項目についてはこれで良いと思う。	・	
福沢	・小中一貫教育とコミュニティスクールが発足したこと。	・足元の学校環境（冷暖房、通学路の安全、ICTの弊害など）についてどのくらいできるか真剣に検証してみることが必要ではないか。	
新井	・GL、大交流時代に対応できる人材育成。	・	
吉川	・おおむね適正。	・	
<b>②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）は適切か」</b>			
清水	・	・目標を正確に指標化できていない。 ・保護者、地域の人々の教育活動への参加率は客観性に乏しい。 ・ICT校内研修を行ったことが、心豊かな人材を育むためにどれだけ寄与したのか？	
古川	・進捗状況確認指標「地域の方の参加」の数字の出し方や「ICT活用」の目標設定が2020年では2017年より下がっているなど数値や数字の出し方が曖昧な部分がある。	・数字や数値の科学的な分析の本確認や目標設定を求めます。	
山崎	・	・「保護者・地域の人々の教育活動への参加率」を、校長の判断のみで測ることは適当でない。例えば、学校支援ボランティアの活動状況は一つの指標となり得る。	
永井	・	・基本目標の確認指標として2つで良いのか、またそれぞれの内容でよいのか再度検討してもらいたい。	
福沢	・ICT活用のための校内研修の実施率がすでに目標値を上回っている。	・ICP活用のための研修の実施率は目標値を修正すべきではないか。 ・保護者、地域の人々の参加率は現在のような統計でなく、市民アンケートなどによる方法に変える必要がある。	
新井	・	・保護者・地域の人々の教育活動への参加率の数値は高く感謝申し上げるが、その後、教育現場を目の当たりにした観想や御意見を汲み取り、（一部、一般質問等では伝えてはいるが）措置改善につなげる行動が見える化させたい。 ・ICT活用のための校内研修の実施率は、本来県教委がすること。ICTの活用方法が活かし切れていない。	
吉川	・	・指標に対する実績値に違和感がある。何を求めているのか？何をしようとした結果なのかが明確でない。	
<b>③「取組はよかったか」</b>			
清水	・	・	
古川	・	・	
山崎	・概ね妥当と思われる。	・	
永井	・	・	
福沢	・様々な取り組みによって、全国平均に比較して学力が若干上回っていること。	・コミュニティスクールが地域や教育現場やボランティアなど支える人たちに、本当に浸透しているか検証することが必要ではないか。	
新井	・地域人教育	・県教委との連携、もしくは文科省の教育特区への展開。 ・南信州広域連合区域の総合的ICTのクラウド化。	
吉川	・	・具体的な内容とそれに関する成果が解りにくいため、取り組みについて評価し難い。	
<b>④時代や状況変化に対応しているか</b>			
清水	・	・	
古川	・今後の方向の部分で4つの柱で書かれてあるが特に4番目の「飯田らしさ」が今後ますます重要になると考える。そのためにもコミュニティスクールを始め地域の方との連携が重要と考える。	・ふるさと飯田に誇りと愛着を持ち・・・とある用意飯田を思う心を育まないと飯田に返る子どもが少ないと考える。そのためにも地域のお祭りや伝統文化に地域の方と参加するのはもちろんどの様なものがあるのか他地区の見学（人形浄瑠璃や霜月祭り）をしてはどうか。	
山崎	・概ね妥当と思われる。	・	
永井	・	・「多様な家庭環境における教育力の維持・向上」が今から求められている。行政としてどのように対処するか、基本目標5とも関わるが、いずれにしても健康福祉部と教育委員会がタッグを組んで取り組むことが大事。	
福沢	・確認指標でみると「ICT教育」の施策が進んでいるように見える。	・教員の働き方改革について、具体的な改善が必要。（クラブ活動、給食費の徴収など）	
新井	・	・	
吉川	・基本目標については明確になっている。	・ICT教育については世間に比べ遅れた進捗状況と言える。	
<b>⑤総合的な評価</b>			
清水	・計画、取組はおおむね正しい。各小戦略が基本目標の達成のためにどう影響したのか？を指標化すべきと考える。		
古川	・戦略では、知育力を生かした飯田らしい小中連携一環教育、多様な学習交流推奨、リニア時代を生きぬく力とし【主体性・柔軟性・協調性・コミュニケーション力・グローバルな発想力・ローカルな視点での行動力・倫理観】を培う人材育成とあるが、大変盛りだくさんである。この戦略が全てできれば素晴らしいことだが、現場で指導されている教職員の方々のご負担とご苦労はいかばかりかと考えます。現場の方の実態もつかみながら進められたい。		
山崎	・小中連携・一貫教育において、中一ギャップの解消は進んだものの、不登校児童は高止まりしており、全体としては評価出来るものの、課題も残されている。		
永井	・5つの小戦略どれも緒に就いたところ。もう少し見守りたい。		
福沢	・ほぼ順調に進んでいる。		
新井	・おおむね正しい。		
吉川	・コミュニティスクールはスタートしたばかりであるが、小中連携一貫教育との整合性に課題がある。一度に多くの課題に取り組んでおり、学校現場も含めたパワー不足にはならないかと危惧する。		

■議会による行政評価 基本目標評価取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標		4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす
	【評価できる点】	【改善・修正が必要な点】
<b>①「計画（戦略）は適正か」「取組は的を射ているか」</b>		
清水	・	・ 知の拠点により、地域が振興されるとは？その地域がどのような状態となっていることをイメージしているのか。知の拠点によって地域振興を成すとはどのようなイメージなのか。わかりづらい。
古川	・ 人形劇の世界大会や総会、美博での春草常設展示など評価出来ると思う。	・
山崎	・ 概ね妥当と思われる。	・
永井	・	・
福沢	・ ほぼ適正と思う。	・
新井	・	・ 「地域振興の知の拠点」という表現は座光寺へ整備中のエリア事業と混同してしまう。
吉川	・	・ 「地域振興の知の拠点」という表現は過去の検討段階の表現であり修正が必要。
<b>②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）は適切か」</b>		
清水	・	・ 各指標の数値の持つ意味、目的がそれぞれ不明確。 ・ 地域振興の指標がない
古川	・	・ 美博は、プラネタリウムがあるので別ですが、恒川遺跡や古墳群、春草常設展示などしないの児童・生徒はどのくらい訪れているのか把握が必要。訪れた子ども たちは何を思うのか、分析し方向性を出してはどうか。
山崎	・	・
永井	・	・
福沢	・ 教育普及事業延べ参加数が今までに比べて飛躍的に伸びすでに目標値を超えたこと。	・ 市民意識調査の「充実していると思う」割合を指標に加えてはどうか。市民がどう考えているかを指標の1つに加えた方がよい。
新井	・	・ 指標から、何を読み取ったか。そして、どのようにそれらを反映させたかが重要ではないでしょうか。
吉川	・	・ 漠然と目標値が定められているように感じる。何をどの様にしたいのか？伝わってこない。
<b>③「取組はよかったか」</b>		
清水	・	・ インナープロモーションが弱い
古川	・	・
山崎	・ 「菱田春草の常設展示」がスタートした点は良かった。	・ 「地域振興の知の拠点」の形成に向けて、あるべき姿を早く構築し、そこに向けて可及的速やかに取り組む必要がある。
永井	・	・ 「地域振興の地の拠点」の考え方は当初と変わっていないことは確認できた。「学輪IIDA」など外部の専門的な知見も活用し地域振興に寄与するというイメージを早急に描き示してほしい。
福沢	・ 地域の方と連携して、古墳群の見学コースを設定できたこと。	・ 「地域振興の拠点」について、その構想を明らかにしていく必要がある。
新井	・	・ 南アルプスは、国主導で取り組まれるよう働きかけねばならない。事業規模が市、県レベルではない。 ・ 全国ネットのメディア媒体の活用が必要。
吉川	・	・ 今までの継続的な進捗であり、教育普及、保存継承と言ったことへの前進的な発想が無い。
<b>④時代や状況変化に対応しているか」</b>		
清水	・	・ 基本目標の守りいかすという部分の、いかす取り組みが弱い
古川	・ ふるさとに誇りや愛着を持ち、地域を大切に思う心を育む。との考えは大変良いと考える。そのための情報発信をどうするのか。	・ やはり子どもたちに史跡や遺跡に触れる機会を増やすことを進めます。良い機会なので本物に触れると言う点で春草展を全児童・生徒に見学させるべきです。ICTばかりでなくこの様なところにも予算を出すべきと考えます。
山崎	・	・ 飯田市が目指す都市像「小さな世界都市」と人形劇は、切っても切れない関係にあるが、これをどうしていくかについて明確に示す必要がある。小戦略の今後の方向性の記述では不十分。
永井	・	・ 「新たな文化をつくりだす」とはどういうことでどのように進めるのか、今一度検討し直し示してほしい。
福沢	・ 特にない。	・ 人形劇やオケ友について、今後の方向を示す時期ではないか。
新井	・ 美術博物館を有していること。	・ 国立博物館等と連携。 ・ ユネスコとの連携。
吉川	・	・ 人形劇など40周年の次をどうするのか、50周年を目指すのかと言ったことを検討して行く必要がある。
<b>⑤総合的な評価</b>		
清水	・ いかすことによって結果として守られる。地域の資源として、積極的に活用する観点が必要。それが新たな文化を創り出すのではないかと考える。	
古川	・ 素晴らしい遺跡や史跡など宝があるのに、多くの方に知られていないのが残念である。人形劇の街でもあるので遺跡や史跡のゆるキャラやグッズをデザインしPRをしてはどうか。	
山崎	・	
永井	・ 自然と歴史を守り伝えることで精一杯ということだと思うが、活かすという視点からの保存とその発信にも同時に取り組んでほしい。	
福沢	・ 全体として目標に向け進んでいる。	
新井	・ 概ね正しい。	
吉川	・ 自然や歴史を守る（維持）することは着実に行われていると思うが、どのように市民に伝えていくかと言う点では、課題がある。	

■議会による行政評価 基本目標評価取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標		5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
		【評価できる点】
		【改善・修正が必要な点】
<b>①「計画（戦略）は適正か」「取組は的を射ているか」</b>		
清水	・	・結婚、出産、子育てについては、この計画によって単純にそれらを叶えることは難しいと考える。ワークライフバランスや家庭環境、職場環境、社会全体の意識改革等、総合的にみていく必要がある。
古川	・保育料の軽減など「飯田で子どもを産み育てる」としての支援は進められてきているが、今後さらなる支援が必要といえる。	・
山崎	・概ね妥当と思われる。	・
永井	・方向性はよく、一定の成果は出ていると思う。	・
福沢	・理想の姿としては、「戦略」のとおりと思う。	・理想と現実（市民意識）が乖離している。
新井	・特に多段階での保育料設定。 ・市立病院の充実。	・保育料の無償化後、市独自の支対策。
吉川	・おおむね適正。	・
<b>②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）は適切か」</b>		
清水	・	・基本目標のねらいは「産み育てたいと思う子供の数の理想を実現する」とある。合計特殊出生率のみの指標では計れない領域がある。 ・子どもを産みやすい環境の街だと思ふ人の割合の目標設定40%は低すぎると考える。（基本目標5の目的にそぐわないのではないか）
古川	・	・
山崎	・概ね妥当と思われる。	・
永井	・	・
福沢	・若い女性の減少という不安はあるが、合計特殊出生率が高水準で推移していること。 保育所の周辺に自然体験ができる環境を創出した数が目標を突破し、「飯田の持ち味を活かした子育て環境」が進んだこと。	・子どもを産みやすい環境の街だと思ふ人の割合があまり増えていないこと。
新井	・合計特殊出生率を維持している。	・人口増と繋がるさらに充実した下支えと原因把握。
吉川	・婚姻件数に特異な点が明確になった。	・
<b>③「取組はよかったか」</b>		
清水	・	・出会いの機会の創出をすることだけが結婚成立に近づけるものではない。
古川	・	・
山崎	・保育料の軽減など、子育て世代の負担軽減が進んだこと。「信州やまほいく」の認定を取得し、「飯田の持ち味を活かした子育て環境」の見える化が進んだ。	・
永井	・	・
福沢	・医療費の軽減や保育施策の拡大など。	・市立病院以外に産院がないことが、若い人の不安になっているのではないか。飯田市として改善していくことはできないか。
新井	・市立病院の充実。	・ism-linkの充実が子育て不安を軽減する。
吉川	・	・児童虐待相談件数がネグレクトで二倍になったことへの対応が不明確。
<b>④時代や状況変化に対応しているか</b>		
清水	・	・多様な生き方が認められつつある時代の中で、結婚、出産、子育てについて、すべての若い世代が希望しているわけではない。結婚して出産して子育てして一人前のような考え方がまだ社会全体に根強くあるが、そのような考え方は時代や状況の変化に対応しているといえないのではないか。（生涯結婚しないと決めた人、里親、LGBT等があるということを確認しながら考えていく必要がある。）
古川	・里帰り出産策にも力を入れ安心して出産出来る体制が整いつつある。	・出産費用は還付金として返っては来るが、一時的に支払はなければならず大変という声を聴きます。支援が出来ればと考えます。
山崎	・概ね妥当と思われる。	・
永井	・切れ目のない妊娠、出産、子育て支援を実施しようとしている点。	・働き手の減少という日本社会の構造的問題が大きくクローズアップされている時代にあって、特に未就学児・小学生がいる家庭から子育てと仕事を両立させるための環境を整えてほしいとの要望が多く寄せられる。この視点から今一度政策を見直してはどうか。
福沢	・③の評価とほぼ同じ時代に対応しているのではないか。	・これからの女性の人口変化に注目していく。
新井	・民間の認定子ども園等への配慮。	・公立から民営化へ移行。 ・ジェネレーションギャップの解消のためのフォロー事業強化。
吉川	・徐々に成果は出ていると思う。	・
<b>⑤総合的な評価</b>		
清水	・的を得た計画にし、有効な取り組みにするためには、本当になんかと思っている人（特に女性）、また、そうは思っていない人についても深く聞き取りをし、ニーズを正確に把握する必要があると考える。	
古川	・	
山崎	・人口問題に直結する戦略であり成果について軽々に評価はできないが、取り組む姿勢は評価に値すると思う。	
永井	・	
福沢	・合計特殊出生率が比較的高いことは施策の影響があるかもしれない。しかし市民意識調査の結果「充実していると思う」に表れているように今一歩何かが必要ではないか。	
新井	・概ね正しい。	
吉川	・多様な対応を求められており、大変であるが先進地区も参考にしながら対応されたい。	

■議会による行政評価 基本目標評価取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標 6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす		
	【評価できる点】	【改善・修正が必要な点】
<b>①「計画（戦略）は適正か」「取組は的を射ているか」</b>		
清水	・	・長期的な（30年後）シミュレーションを用いた計画策定が必要ではないか。
古川	・	・
山崎	・概ね妥当と考える。	・
永井	・ねらいや取り組み項目はこれで良いと思う。	・
福沢	・新飯田荘などで地域について、地域との交流を考慮するようになったこと。	・様々なイベント、教室・グループなどへの男性の参加が少ないこと。
新井	・	・
吉川	・おおむね適正。	・
<b>②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）は適切か」</b>		
清水		・基本目標6のねらいは「健康寿命の延伸」とあるが、その指標がない。
古川	・いまだ、特定健診など受診率が伸び悩んでいる状態だ。	・
山崎	・	・健康寿命年齢やがん健診、特定健診受診率などは、参考でなく進捗状況確認指標として扱うべき数値と考える。
永井	・	・
福沢	・直ちに評価できないことがない。	・大きな目的の「健康寿命」と「特定健診受診率」を確認指標に持ってきたらどうか。・介護予防事業の参加者数の伸びが少ないのではないか。
新井	・	・
吉川	・	・健康診断について評価すべき。特に40代、50代の意識改革が必要。
<b>③「取組はよかったか」</b>		
清水		・健康寿命と寿命とのギャップの分析とこの課題の検討。・介護予防事業について、特に男性の参加数、参加率が低い。
古川	・62歳に重きを置き取り組まれてきたが40歳・50代の働き盛りの世代にむしろ力を入れるべきではないか。	・袋井市では普通の地道な努力の継続と国保になってからでは遅いので40代50代の方への働きかけを重視しているとのことでした。当市も行っていることと思うが結果に差がありすぎます。何が違うのか。今一度分析・研究をされたい。
山崎	・	・62歳家庭訪問にそれなりの論拠があることは理解したが、特定健診受診率の向上には、もう少し早い段階からの働きかけが求められる。
永井	・	・
福沢	・62歳への家庭訪問、退院調整についてにルール策定、介護職へのism-リンクを広げる取り組み。	・特定健診受診率が少し上がっているが、県平均に比べて低い。
新井	・予防事業の充実。	・特定健診の受信率アップ。・予防事業への参加率向上。
吉川	・	・「歩こう動こうプラステン」はイメージ的な感覚が大きい。もう少し具体的に進めるべき。
<b>④時代や状況変化に対応しているか</b>		
清水	・	・
古川	・	・袋井市のような運動を行うとポイントやマイレージがたまるなど得点を付けてはどうか。
山崎	・	・生活習慣病対策には、企業とのさらなる連携が求められる。
永井	・	・「今後を見据えた時の課題」認識はまさにその通りなのだが、実施している施策が認識とマッチングしていないのではないか。
福沢	・ism-リンクの取り組み。	・ひとのつながりが健康上、最も大切なことという研究が発表されている。その点強調した施策が今後必要。
新井	・	・一昔前の高齢者と現在の高齢者の意識の差が大きい。実祭の行動や考えを再度リサーチするべきではないか。
吉川	・おおむね対応できている。	・
<b>⑤総合的な評価</b>		
清水	・計画、取組はおおむね正しい。各小戦略が基本目標の達成のためにどう影響したのか？を指標化すべきと考える。	
古川	・介護予防は進められてはいるが、この予防活動でどれだけの医療・介護抑制となっているのかははっきりとはしない。今後、数値化・データ化され医療費や介護料の抑制につなげられたい。	
山崎	・単年度での取組で数値が改善する戦略ではないので、成果についての評価は難しいが、市の財政に与える影響が大きいテーマでもあり、市民の意識付けに力点を置いた取組に期待したい。	
永井	・ねらいや取り組み項目は良いと思う。しかし、袋井市を視察し、取り組み内容と結果を聞いてしまうとなぜこんなに違うのかと思う。もう少し、地域別に科学的な分析を伴う事業展開はできないものか。	
福沢	・統計上で、平均寿命・健康寿命とも動きがないといえる。健康に関しては政策上今のところ成果は出ていないといえるのではないか。	
新井	・概ね正しい。	
吉川	・生活習慣病の予防は非常に重要であり、重症化させないためにも、40代、50代からの対応が重要。	

■議会による行政評価 基本目標評価取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標		7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
	【評価できる点】	【改善・修正が必要な点】
<b>①「計画（戦略）は適正か」「取組は的を射ているか」</b>		
清水	・	・
古川	・	・
山崎	・概ね妥当と思われる。	・
永井	・ねらいや取り組み項目はこれで良いと思う。	・
福沢	・「地域福祉計画」が発足したこと。	・平成29年度から発足した「地域福祉計画」が実行性ある市民のものになること。
新井	・	・
吉川	・おおむね適正。	・
<b>②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）は適切か」</b>		
清水	・	・小戦略それぞれの指標化が必要。
古川	・	・
山崎	・	・例えば、要介護者のケアの場所を施設から在宅へと移行した人数など、「地域包括ケアシステム」の成果がわかるような指標の導入を。
永井	・	・
福沢	・今の指標の結果では、評価は難しい。	・市民意識調査「いざという時支え合う関係」を指標としたらどうか。
新井	・	・
吉川	・	・目的と進捗状況が分からない。
<b>③「取組はよかったか」</b>		
清水	・	・
古川	・	・国や地方の財政難の中、行政による控除を充実させるとともに地域活動による支え合い、住民相互の助け合いが必要。とありましたが、確かに後者もひつようとかがえませんが、根底には、公助がしっかり根付いていないといけな思考えます。
山崎	・概ね妥当と思われる。	・
永井	・国が描いた地域包括ケアシステムのフルメニューがスタートしたのが今年の4月であり、実際はこれからだが、第6期計画の3年間でこれで良かったのかは大いに疑問。	・
福沢	・地域巡回の機会が多い4団体と見守り協定を結んだこと。	・住民助け合いマップは1年に1回の見直しを各地区に要請したらどうか。
新井	・	・
吉川	・おおむね対応できている。	・
<b>④時代や状況変化に対応しているか」</b>		
清水	・	・2025年にむけて元気な高齢者が支援が必要な高齢者を支える取り組みが必要。
古川	・	・
山崎	・概ね妥当と思われる。	・
永井	・課題認識はそのとおり。	・将来自分が認知症になるのではないか、あるいは家族が認知症になった時どうするかといった不安を抱えている市民が多くいる。予防も含めて様々な取り組みが必要。
福沢	・市民自らが福祉活動にかかわっていくことが重要とした地域福祉計画が発足し、ケア計画や住民支え合いマップが活用され始めていること。	・地域福祉計画のゴミ出し、買い物支援について具体的に地域で取り組みが進むように市としての支援が必要。
新井	・	・そもそも自治会未加入は論外。法律を照らし合わせれば違法でもなんでもないだろうが、残念の一言。
吉川	・おおむね対応できている。	・
<b>⑤総合的な評価</b>		
清水	・計画、取組はおおむね正しい。各小戦略が基本目標の達成のためにどう影響したのか?を指標化すべきと考える。	
古川	・住民支え合いマップなど地域住民の方や民生児童委員・ボランティアさん・まちづくりの方など支援体制を進めるのは良いのだが過度な協力要請にならないようされたい。	
山崎	・	
永井	・	
福沢	・地域福祉計画や地域包括ケア計画がスタートしたばかりだが、この時期としてはほぼ順調なのではないか。	
新井	・概ね正しい。	
吉川	・おおむね対応できていると思うが、実施内容の見える化が不十分である。	